

## 2021 年度実施概要

学校名

愛媛県新居浜市立多喜浜小学校

採択活動名

海の恵みで発展してきたふるさとを学ぶ ～多喜浜塩田を未来に伝えよう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. たきはま小水ぞくかんをつくろう	1年生	海洋教育科、生活科、図画工作科
2. 海の生きものをそだてよう！	2年生	海洋教育科、道徳科、生活科、国語科、算数科
3. 海からのおくりもの	3年生	海洋教育科、総合的な学習の時間、国語科
4. 「海のめぐみ塩づくり」隊	4年生	海洋教育科、総合的な学習の時間、学級活動、道徳科、国語科、社会科、算数科、理科、体育科
5. 多喜っ子海洋調査隊	5年生	海洋教育科、総合的な学習の時間、図画工作科、国語科
6. 地域の誇り多喜浜塩田再発見	6年生	海洋教育科、総合的な学習の時間、道徳科、国語科

取り組みの概要

**1 活動のねらい**

本校は、世界で唯一、塩田施設を有し、「塩の学習館」において、「塩作り体験」を行うことができる。このような施設や多喜浜塩田の文化遺産を核にして、本校を新居浜市の「ふるさと学習」の拠点として位置付け、学習活動を展開する。様々な学習活動を通して、地域の文化遺産を未来に伝える意義や方策、また多喜浜塩田の歴史と海とのつながりや海洋環境保全について学び、学習の内容や成果を積極的に発信し、保護者、地域と連携して持続可能な社会の担い手を育てる。

**2 実施内容****(1) たきはま小水ぞくかんをつくろう**

地元の海岸で集めた石ころなどを持って、あかがねミュージアムへ行き、愛媛県美術館の先生から石ころアートの作り方を教わり、自分の興味のある海の生き物を制作した。意欲的に取り組み、様々な海の生き物を完成させることができた。

**(2) 海の生きものをそだてよう！**

海の生き物について、本を使ったり、愛媛県総合科学博物館の学芸員の先生に質問したりして、調べ活動を行った。実際に海の生き物を1週間飼育し、生き物の生態や生育環境を知ることを通して、海の生き物への興味・関心を高めた。



### (3) 海からのおくりもの

近隣の漁港を訪問し、漁船や市場のセリの場所等を見学した。また、漁具の一つ「底引き網」の仕組みや、実際に魚を加工・処理するところを目にすることで、普段、食べている魚がどのように加工されているのかを知り、海のめぐみについて実感することができた。



### (4) 「海のめぐみ塩づくり」隊

うたづ海ホテルへ行き、多喜浜でもかつて行われていた入浜式塩田作業を体験することで、塩作りや塩田の仕組み、当時の人々の苦労を知ることができた。多喜浜塩田でも同じ仕組みで塩作りが行われていたことを知り、塩田学習への意欲を高めることができた。



### (5) 多喜っ子海洋調査隊

実際に海岸に行き、海岸に流れ着くごみの量や種類について調べることを通して、マイクロプラスチック等、海洋ごみ問題についての理解を深めるとともに、問題の解決のために自分たちができることを考えた。そして、自分たちでマイバック利用やリサイクルなどを呼びかけるポスターを作成し、地域のお店などに掲示してもらうように活動する中で、海の環境保全の意識を高めることができた。



### (6) 地域の誇り多喜浜塩田再発見

多喜浜塩田の歴史を学んだり地域の方々のお話を聞いたりする活動を通して、地域のすばらしさやそれを支えてきた人々の思いを知ることができた。また、学習した事柄を下級生に伝える活動を通して、児童一人一人に、地域の一員としての自覚を芽生えさせ、これからも地域を大切にしていきたいという心情を育てることができた。



### (7) 海っこ集会

本校で取り組んでいる海洋教育「海っこタイム」の総まとめとなる学習発表会を実施した。コロナ感染防止対策のため、一学年ごとに録画し、後日教室で視聴した。各学年で1年間学んできたことを劇や踊り（ソルティちゃん音頭）など工夫を凝らした楽しくわかりやすい発表を行い、学びを共有することができた。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 地域が大切にしている塩田文化のもととなる「海」に直にふれることを通して、その楽しさや資源の豊富さなどの魅力を感じ、身近な海への関心を高めることができた。また、海洋ごみの存在を知ることによって、自分たちの生活を見直し行動する良いきっかけとなった。
- ・ 「かしよい（助け合い）」の精神が生まれた背景を知り、自分たちの生活の中に「かしよい（助け合い）」を目標として取り入れるようになった。また、塩田文化を後世に伝えるために地域の方々が無

していることに気付くことができた。

- 身に付けさせたい表現力を意識した学習活動を展開していくことで、3段落構成を意識して文章を書くことができるようになるなど、一定の成果は見られた。
- 本校の実践事例が市内全小中学校に映像等の教材（DVD）として配布される。本校の海洋教育の成果が他校にも共有され、本校を含む、次年度以降の海洋教育の継承につながることを期待できる。

## （2）課題

- 外部機関や地域との連携を通して、海洋調査等専門的な学習内容を取り扱うことができた。さらに、連携を深め継続していくことで、深まりのある学習が行うことができると考える。
- コロナ禍で、スケジュール等、当初の計画の変更を余儀なくされたが、実施形態・内容等を工夫し、ねらいにせまる活動を行うことができた。今後も、制限がある中で、学びを継続するために校内での引継ぎを確実にを行うとともに、その状況に応じた学習展開等を工夫していくことが必要である。